

2. 調査報告書

主任調査員氏名 新納 祐子 / 同行調査員氏名 中村 朋美

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が、その人らしい暮らしを続けていくためのケアサービスができるように、ホーム開設時に職員全員で独自の理念がつけられているが、その時のままとっている。	○	これまでの理念に加えて地域密着型サービスとしての内容の理念を作り上げることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は毎朝唱和し、定期的に会議等で理念を確認しながら日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入していて、今年は班長もしている。町内会、六月灯、校区運動会等に参加したり、敬老会などにあいご会の子ども達が、ホームを訪問してくれたり、地域の人々と交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価の意義を理解し、自己評価をグループに分けて話し合いを行った。自己評価・外部評価の結果を踏まえ、ホームの運営、ケアの改善等を話し合い、さらなるサービスの向上に取り組んでいる。		

グループホーム大竜

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・地域住民の代表等に参加の呼びかけを行い、運営推進会議を開催している。ホームについての情報や活動を報告し、意見交換を行いサービスの向上にいかす取り組みを行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的に地域包括センターや福祉事務所の担当者と利用者の問題解決のために連携を取っている。介護相談員の受け入れも取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の近況は、家族の来訪時に伝え、健康状態は、その都度電話などで報告している。また、2ヶ月に1度定期的にホーム便りを発行しホームでの日常や行事の写真、職員の紹介、個別の近況など報告している。金銭管理は家族の状況にあわせ、来訪時や毎月の請求書と同封するなど報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に重要事項説明書で苦情相談窓口の説明を行ない、玄関に意見箱も設置している。家族の訪問時や年2回の家族会、また運営推進会議に利用者、家族代表も参加してもらい意見等を運営に反映する取り組みを行なっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に職員の配置を固定していて、馴染みの関係を作っている。異動時は、スムーズに対応ができるように、きちんと紹介を行い、職員採用時は、試用期間を設け、利用者との馴染みの関係を作っていくように努めている。		

グループホーム大竜

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員が均等に参加できるように外部研修を受ける機会を確保している。また、1・2ヶ月に1度は内部研修を行い、職員が企画担当することで、より自ら学べるよう工夫している。職員の資格の取得も積極的に勧めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入していて研修会に参加している。関連のグループホームとは、夏祭りを合同で行い、交流を図っている。		地域の他のホームを訪問したり、ネットワークづくり等、交流を行っていかれることに期待したい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	状況に応じて自宅を訪問したり、利用前に、本人・家族に説明したり見学してもらって、場の雰囲気に徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から味付けなどの調理法や裁縫・菜園作り・言葉の使い方など教わりながら互いに支えあう関係を大切にしている。		

グループホーム大竜

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「出来ること、出来ないことシート」を活用しながら、入居時のアセスメントや日ごろの会話の中で一人ひとりの思いや意向を聞くようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスには、本人・家族・職員が参加して、意見を出し合い、「出来ること、出来ないことシート」を参考にしながら、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎、期間に応じた見直しを行うようにしている。状態の変化、家族の希望等があるときは、随時の見直しを行い、現状にあった計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望があった時、通院介助等の支援を行っている。外出・ドライブなどの支援も実施している。		

グループホーム大竜


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医との関係を大切にし、受診や往診を受けられるよう支援している。毎月1回の往診、服薬指導、歯科医の受診等、必要に応じて適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルの実例はまだないが、定期的に看護師の訪問を受けたり、かかりつけ医との医療連携体制もとれている。重度化や終末期のあり方の方針について職員間での話し合いをしている。また、本人、家族への説明も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人のプライドを傷つけないように言葉づかいに気をつけており、トイレ・入浴時などの声かけや対応、ケアにも配慮している。個人情報についても同意書に基づいて、取り扱いに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴・食事等、一人ひとりのペースを大切に支援している。散歩や買い物等も出来るだけ本人の状態や希望に配慮しながら対応している。		

グループホーム大竜

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が献立を決めているが、利用者の意見を取り入れて献立を変更することもある。買い物と一緒に出かけたり、食事の準備、片付けも職員と利用者が一緒に行っている。職員も一緒に同じ食事を食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミング、体調に合わせて入浴支援をしている。朝風呂や仲の良い人同士の入浴等、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫・菜園づくり・絵画・習字・ダンス・陶芸・散歩等、一人ひとりの生活歴、趣味や得意なこと、楽しみごとや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物、銀行など本人の希望に応じて外出している。ドライブデーを設け希望に応じてデパートや公園・動物園・外食を楽しむなど、戸外に出かける支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者、管理者、全職員が鍵をかけないケアの大切さを認識している。日中は、鍵をかけない自由な暮らしを支えるケアに取り組んでいる。		

グループホーム大竜

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、職員・利用者・消防署・セキュリティ業者と一緒に消防訓練を行っていて、災害時の協力体制はできている。地域の人々の協力への声かけは行っていない。	○	今後は地域の人々にも災害時の協力が得られるよう、避難訓練などへの参加、協力を働きかけていくことが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録して把握している。月1回栄養士に献立表を見てもらい、栄養バランスのアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼リビングに椅子・テーブル・ソファが置いてあり、畳の間には、神棚・仏壇が置かれ、利用者は、ゆったりと過ごしている。光や音の音量にも配慮し居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとチェストは備え付けられていて、布団や好みの装飾品・写真・日用品などが持ち込まれ、居心地よく安心して過ごせるように工夫している。		

※  は、重点項目。